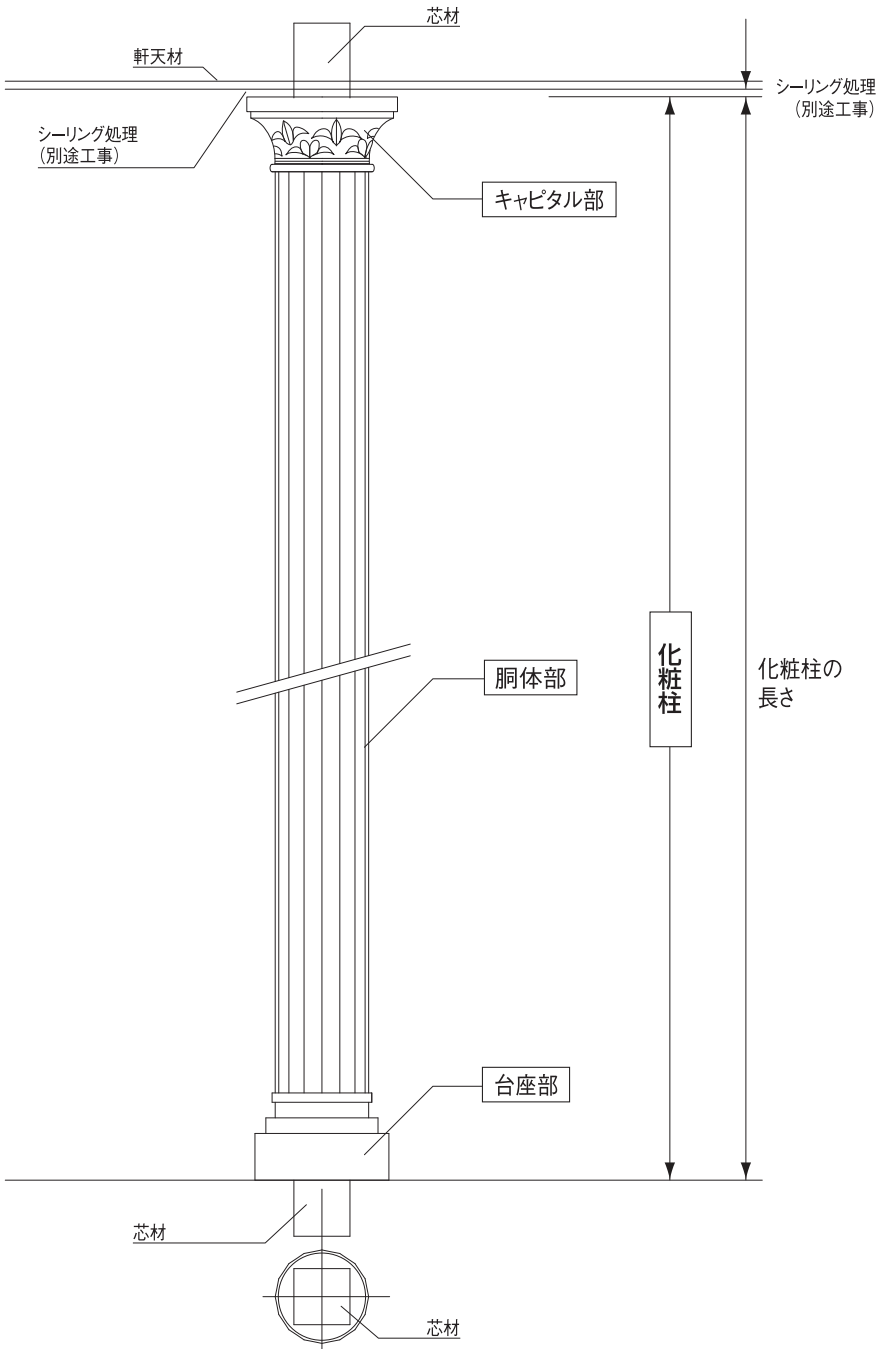


エクラート化粧柱の解説

■化粧柱の構成

- 化粧柱は、キャピタル部・胴体部・台座部で構成されています。
- 現場の状況に合わせて長手方向に半分に割って納入すること（半割れタイプ）も、対応可能となっております。



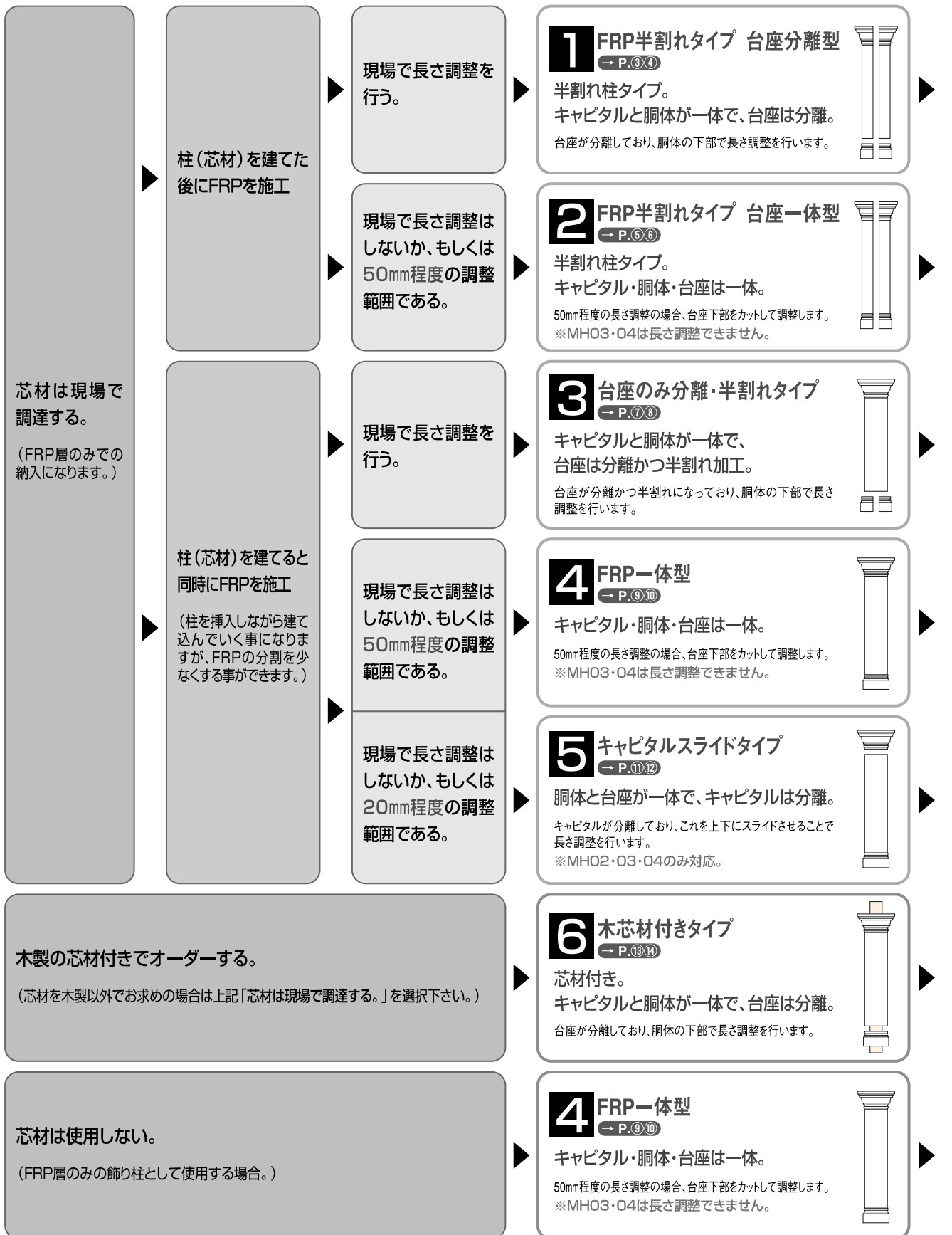
■胴体外径寸法と対応芯材サイズ

芯材の大きさは以下の下地サイズを参照してください。

		W01	W02	W03	W04	W05	H01	H02	H03	H04
胴体外径寸法		150φ	150φ	150□	200φ	250φ	200φ	250φ	300φ	400φ
下地サイズ	丸	120φ以下	120φ以下	120φ以下	120φ以下	160φ以下	115φ以下	150φ以下	200φ	300φ
	角	90□以下	90□以下	90□以下	120□以下	150□以下	115□以下	140□以下	150□以下	240□以下
		EH01	EH02	EH03	MH01	MH02	MH03	MH04		
胴体外径寸法		上部:180φ 下部:244φ	上部:180φ 下部:244φ	上部:185φ 下部:245φ	400φ	500φ	600φ	650φ		
下地サイズ	丸	140φ以下	130φ以下	150φ以下	330φ以下	400φ以下	480φ以下	500φ以下		
	角	115□以下	115□以下	115□以下	250□以下	300□以下	350□以下	400□以下		

化粧柱施工方法選択チャート

●現場の状況を確認し、下記選択チャートから推奨タイプをお選びください。



※和風銘木タイプ(化粧柱2型)は木芯材付きタイプのみで、L寸の別注対応はできません。 → P.⑯
 ※エンタシスタイプ(EH01~03)は、L寸の別注対応はできません。

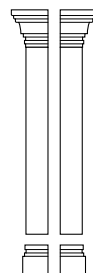
1 FRP半割れタイプ 台座分離型の施工方法

■設計施工時の注意

- 柱（芯材）を建てた後にFRPを施工し、現場での長さ調整が必要な場合に推奨しております。
- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 取付け完了後、胴体部と台座のジョイント部分に同梱のシーリング材でシーリング仕上げをしてください。
- 養生および他部材との取合い部は別途工事になります。
- 台座が分離しており、胴体の下部で長さ調整を行います。



- 施工時にキズがつかないように十分に仕上げ面を養生してください。
- 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。



■施工要領

●施工前の注意事項

既存柱の建入れを確認し、化粧柱を取付けたときに鉛直になるように確認してください。

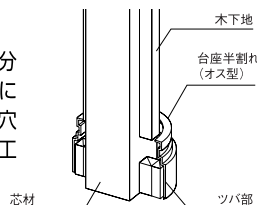
●製品を取り付ける前に

取付け下地の用意が必要です。既存柱の種類に応じて、納まり参考図のように製品寸法に合わせて取付け下地を設置してください。また、現場採寸にて胴体下部をカットし長さを調整（製品の長さ調整参照）しておいてください。

■施工手順

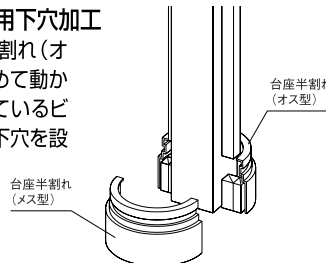
①台座半割れ（オス型）の取付け

下地に台座半割れ（オス型）をツバの部分でビス留めします。この際、納入時にすでに明いているオス型とメス型の留付けビス穴とは別のビス穴を新たに設けて座ぐり加工をして留付けてください。



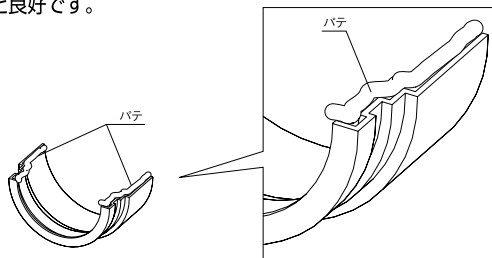
②台座半割れ（メス型）の取付け用下穴加工

まず、手順①で取付けられた台座半割れ（オス型）に台座半割れ（メス型）を嵌めて動かないよう仮止めし、納入時に明いているビス穴を利用して留付け用下地材に下穴を設けます。



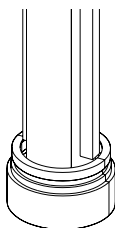
③台座半割れ（メス型）へのパテ塗布

いったん外した台座半割れ（メス型）のジョイント部にパテを盛付けます。パテについては、メス型をかぶせた際に、目地よりはみ出るくらいの状態になっていると良好です。



④台座半割れ（メス型）の取付け

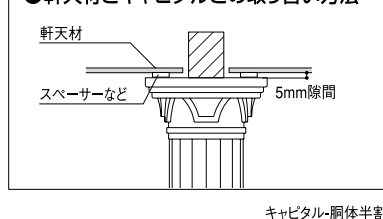
台座半割れ（メス型）を嵌め込み、手順②の下穴に従ってタッピングビスを打っていきます。この際のビスの打ち込み強さは、オス型との目地部が揃うように調整し、必要な場合は新たにビス下穴、座繰り、ビス打ちを追加します。（はみ出した目地部のパテをならします。（小山になるようにしてください。））



⑤キャピタルー胴体半割れ（オス型）の取付け

キャピタルと軒天材との間にスペーサーなど（別売部材フクビサッシスペーサーなど）をはさみ、シーリング用の隙間5mmを考慮の上、アルミアングルなどで下地を設け、キャピタル部を固定、その他は、手順①と同様の方法で施工してください。（@450mm）

●軒天材とキャピタルとの取合い方法

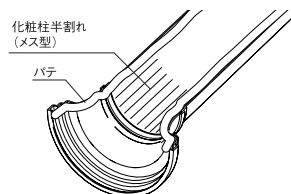


⑥キャピタルー胴体半割れ（メス型）の取付け用下穴加工

手順②と同様の方法で処理してください。

⑦キャピタルー胴体半割れ（メス型）へのパテ塗布

手順③と同様の方法で処理してください。



⑧キャピタルー胴体半割れ（メス型）の取付け

手順④と同様の方法で施工してください。

⑨ジョイント部にパテを充填（ジョイント方法参照）

ビス頭の上にもパテを埋め込んでください。

⑩パテ硬化後のサンディング

サンドペーパーで削って砂目がパテに付かない程度にパテが硬化したら、同一方向からパテをサンディングします。その後、反対方向からパテをサンディングし形状を整えます。また、ビス頭のパテを削り、面一にします。

⑪タッチアップ

パテおよび柱の表面の汚れ等をウエス等で取り除き、乾燥後に目地部にタッチアップしてください。

⑫シーリング

台座と胴体部の取合い部分にシーリング仕上げをしてください。

■構成部材

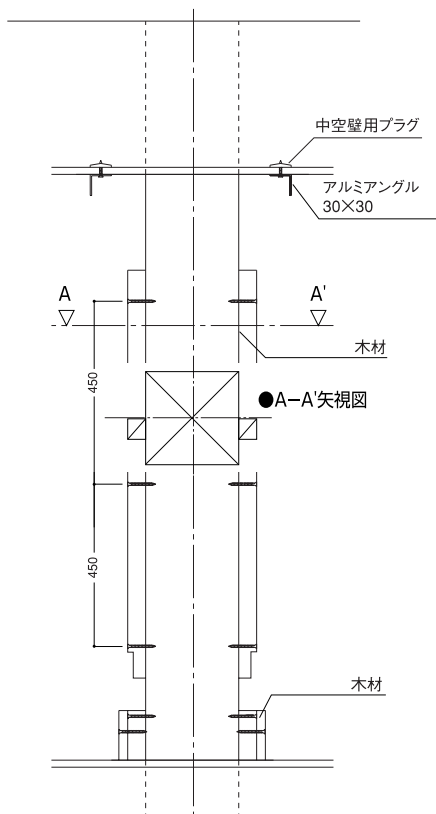
■標準仕様

主要部材	化粧柱半割れ加工品（本体ーキャピタルー一体型）	1セット／梱包
	化粧柱半割れ加工品（台座）	
シーリング材	変性シリコンシーリング（150g/1本）	
パテセット	1セット／梱包	

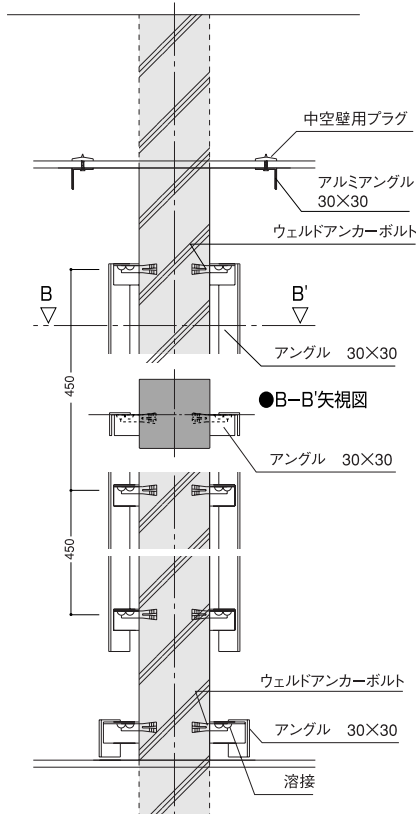
■納まり参考図

1 FRP半割れタイプ 台座分離型の施工方法

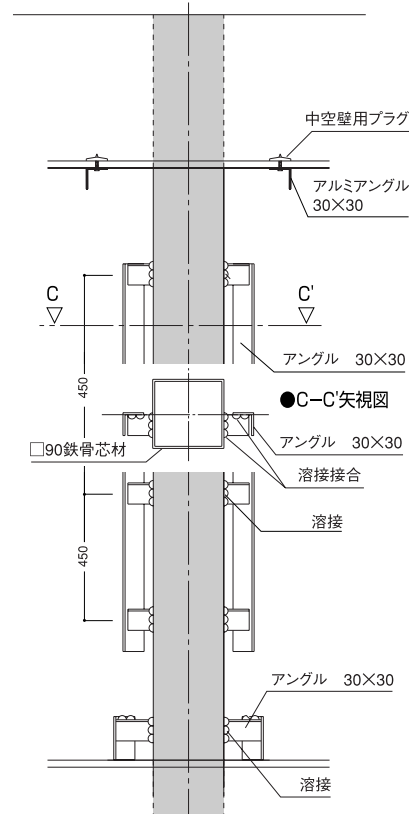
●取付け下地 木下地の場合



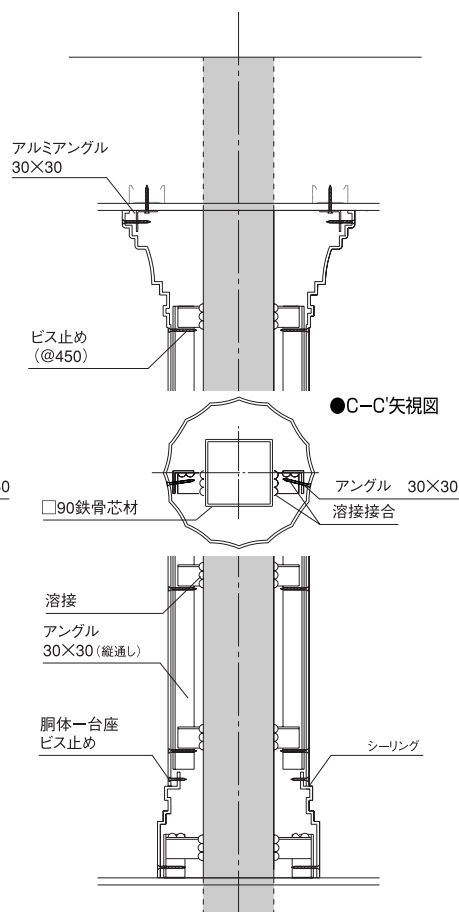
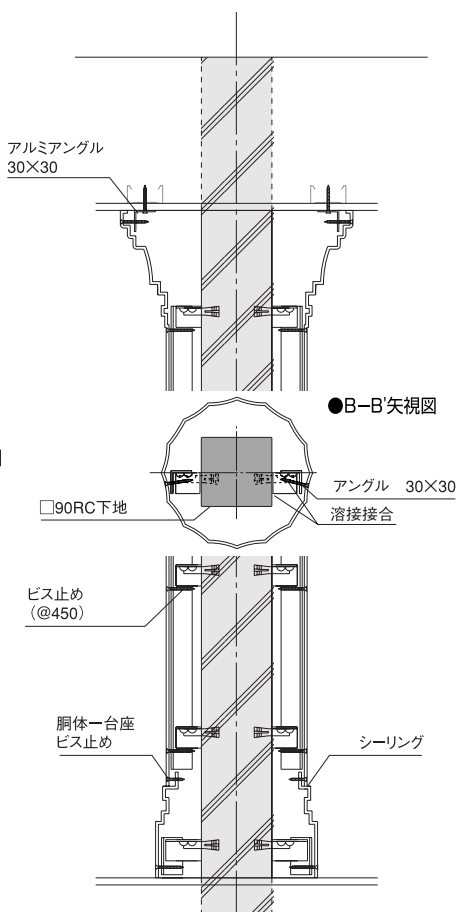
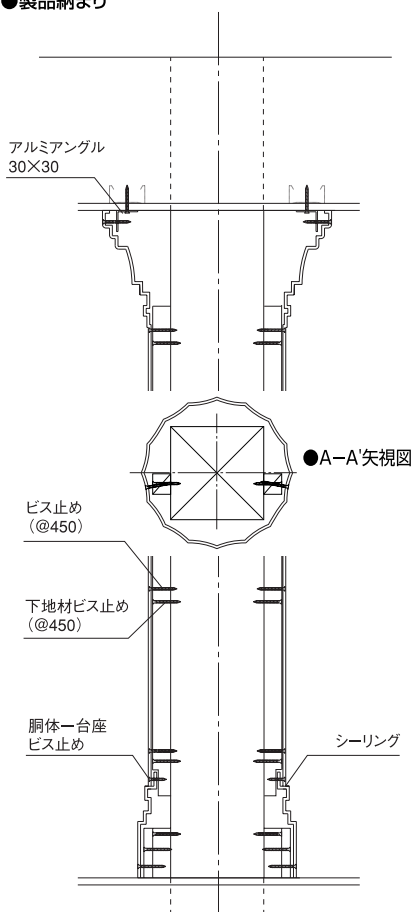
RC下地の場合



鉄骨下地の場合



●製品納まり



※製品を下地に留め付けるビス以外(アルミアングル等)は、すべて現場調達品となっております。

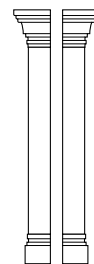
2 FRP半割れタイプ 台座一体型の施工方法 (キャピタル-胴体-台座すべて一体型)

■設計施工時の注意

- 既存の柱があり、化粧柱自体の長さ調整が不要の場合、もしくは50mm以内の調整の場合に推奨しております。
- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 養生および他部材との取合い部のシーリングは別途工事になります。
- 50mm程度の長さ調整の場合、台座下部をカットして調整します。



- 注意**
- 施工時にキズがつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。
 - 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。
 - 意匠上、MH03・04は現場で長さ調整できません。



■施工要領

●施工前の注意事項

既存柱の建入れを確認し、化粧柱を取付けるときに鉛直になるように確認してください。

●製品を取り付ける前に

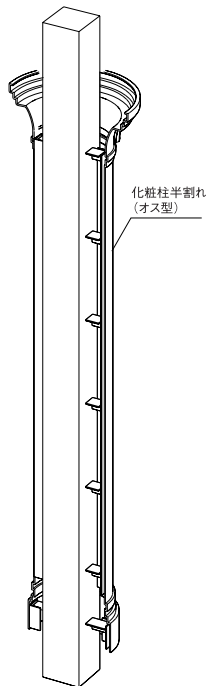
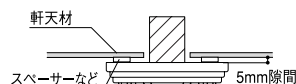
取付け下地の用意が必要です。既存柱の種類に応じて、納まり参考図のように製品寸法に合わせて取付け下地を設置してください。

■施工手順

①化粧柱半割れ(オス型)の取付け

キャピタル-軒天材との取合いに注意し、下地に化粧柱半割れ(オス型)をツバの部分でビス留めします。(φ450mm) この際、納入時にすでに明いているオス型とメス型の留付けビス穴とは別のビス穴を新たに設けて座ぐり加工をして留付けてください。

●軒天材とキャピタルとの取合い方法



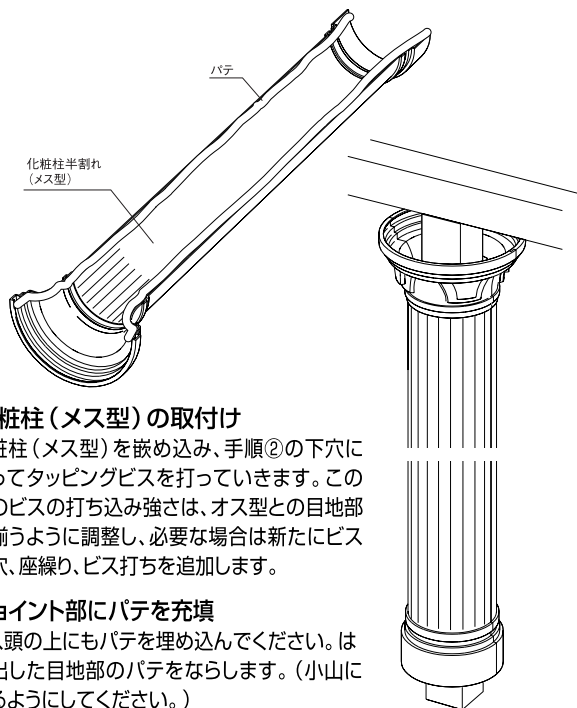
②化粧柱半割れ(メス型)の取付け用下穴加工

まず、手順①で取付けられた化粧柱半割れ(オス型)に化粧柱半割れ(メス型)を嵌めて動かないよう仮止めし、納入時に開いているビス穴を利用して留付け用下地材に下穴を設けます。

化粧柱半割れ(メス型)

③化粧柱(メス型)へのパテ塗布

いったん外した化粧柱(メス型)のジョイント部にパテを盛付けます。パテについては、目地よりはみ出るくらいの状態になっていると良好です。



④化粧柱(メス型)の取付け

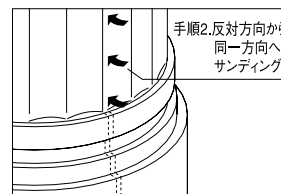
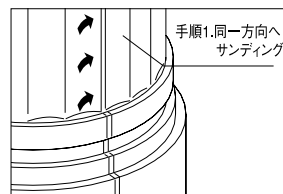
化粧柱(メス型)を嵌め込み、手順②の下穴に従ってタッピングビスを打っていきます。この際のビスの打ち込み強さは、オス型との目地部が揃うように調整し、必要な場合は新たにビス下穴、座繰り、ビス打ちを追加します。

⑤ジョイント部にパテを充填

ビス頭の上にもパテを埋め込んでください。はみ出した目地部のパテをならします。(小山になるようにしてください。)

⑥パテ硬化後のサンディング

サンドペーパーで削って砂目がパテに付かない程度にパテが硬化したら、同一方向からパテをサンディングします。その後、反対方向からパテをサンディングし形状を整えます。また、ビス頭のパテを削り、面一にします。



⑦タッチアップ

パテおよび柱の表面の汚れを、ウエスで取り除き、乾燥後にジョイント部分にタッチアップしてください。

■構成部材

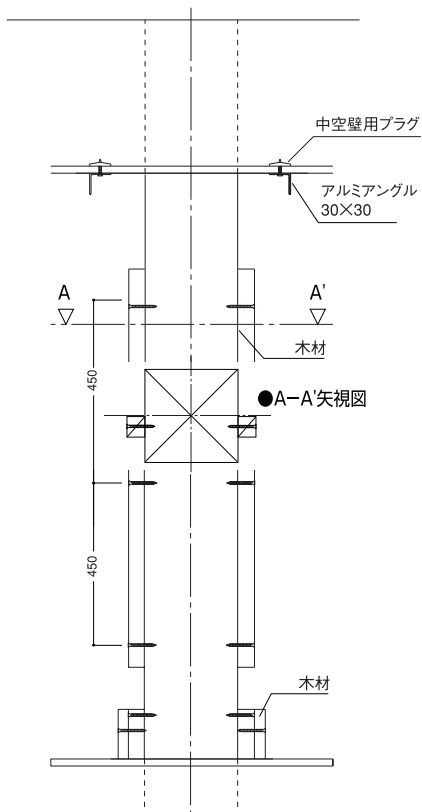
■標準仕様

主要部材	化粧柱半割れ加工品(キャピタル-本体-台座 一体型)	1セット / 梱包
シーリング材	変性シリコンシーリング(150g/1本)	
パテセット	1セット/ 梱包	

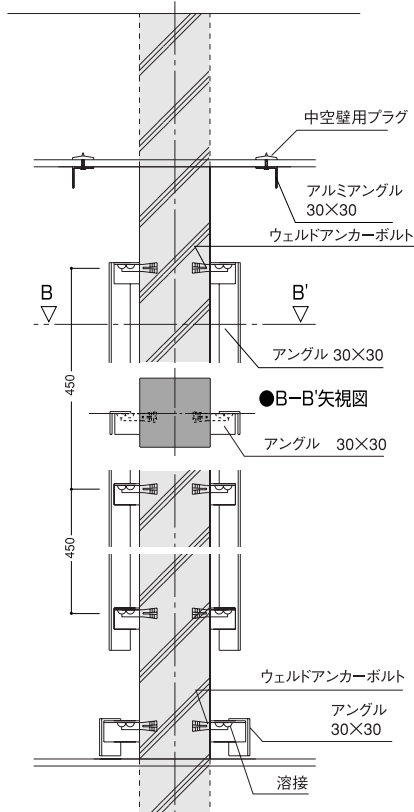
■納まり参考図

2 FRP半割れタイプ 台座一体型の施工方法

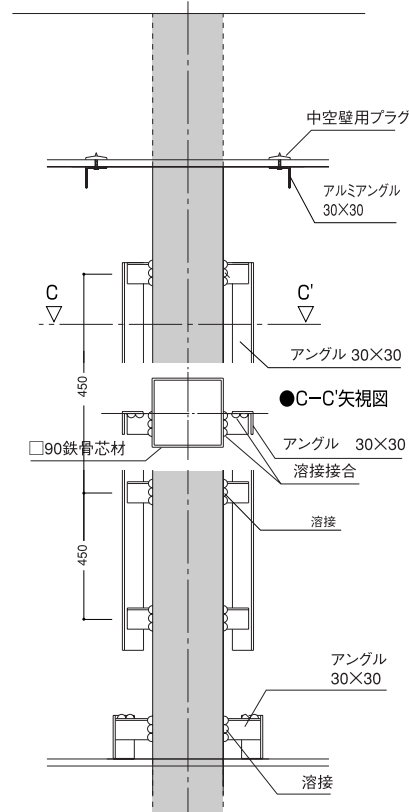
●取付け下地 木下地の場合



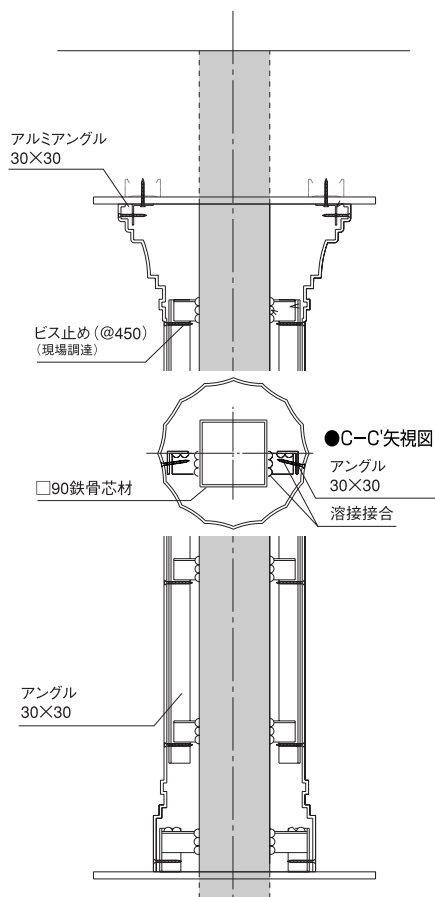
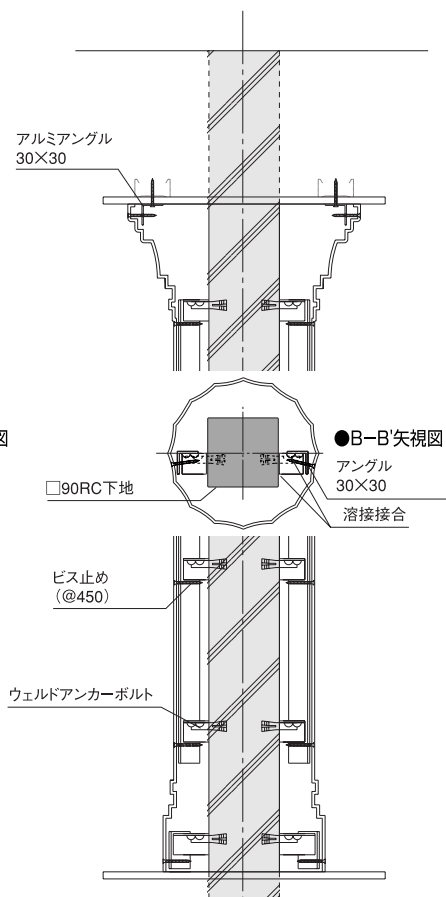
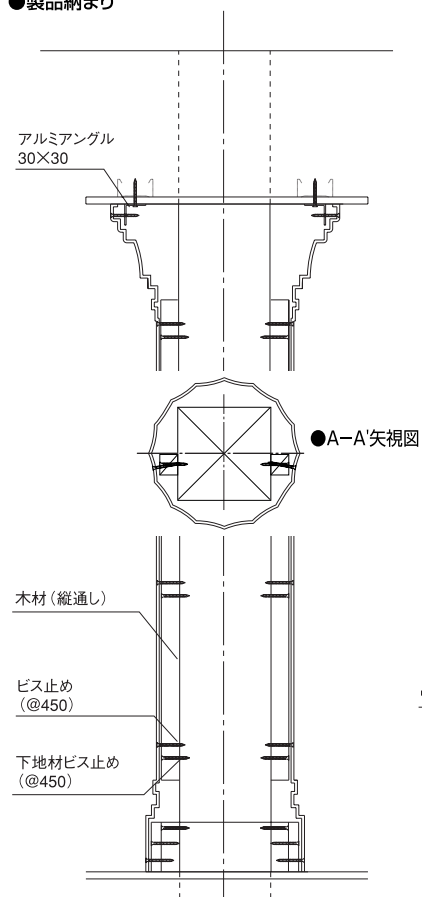
RC下地の場合



鉄骨下地の場合



●製品納まり



※製品を下地に留め付けるビス以外(アルミアングル等)は、すべて現場調達品となっております。

③ 台座のみ分離・半割れタイプの施工方法 (キャピタル-胴体一体型、台座半割れ)

■設計施工時の注意

- 台座が分離かつ半割れになっており、胴体の下部で長さ調整を行います。
- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 養生と他部材との取合い部のシーリングは別途工事になります。
- 取付け完了後、胴体部と台座のジョイント部に同梱のシーリング材でシーリング仕上げをしてください。

⚠ 注意

- 施工時にキズつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。
- 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。



■施工要領

●施工前の注意事項

芯材を取付けるための梁の位置を十分に確認してください。

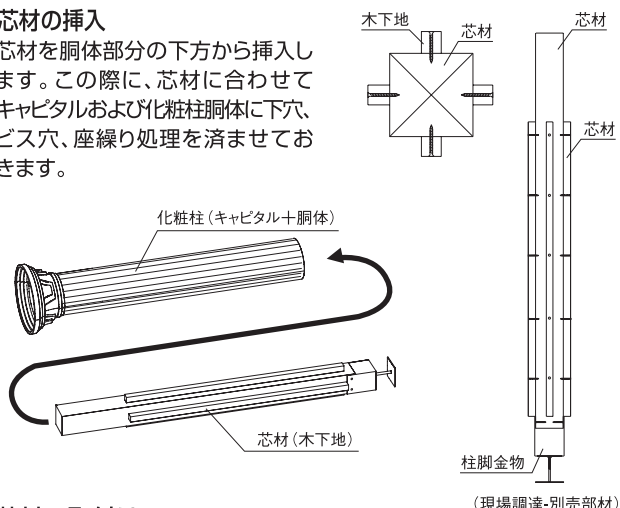
●製品を取り付ける前に

取付け下地となる芯材の用意が必要です。納まり参考図のように製品寸法に合わせて芯材を設置してください。また、芯材の脚部には長さ微調整のための柱脚金物 (別売金物) を取付けてください。

■施工手順

① 芯材の挿入

芯材を胴体部分の下方から挿入します。この際に、芯材に合わせてキャピタルおよび化粧柱胴体に下穴、ビス穴、座繰り処理を済ませておきます。



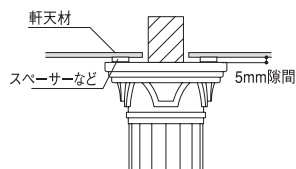
② 芯材の取付け

芯材の上部を留め付ける部分の天井に、化粧柱のキャピタル部分で隠れる大きさの開口を設けます。梁に芯材上部を固定し、柱脚金物で長さの調整を行い、鉛直になるように固定します。(化粧柱のキャピタル部分が小径の場合は、天井は後付け施工してください。)

③ 化粧柱の固定

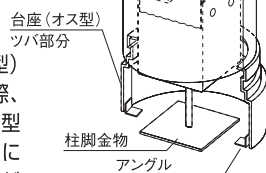
化粧柱を芯材に取付けてください。ビス頭はパテ処理し、十分に研磨した後、タッチアップ塗料を塗布してください。

●軒天材とキャピタルとの取り合い方法



⑤ 台座 (オス型) の取付け

アングル2個使用して、床面と台座 (オス型) をツバの部分でビス留めします。この際、納入時にすでに開いているオス型とメス型の留付けビス穴とは別のビス穴を新たに設けて座ぐり加工をした上で留付けてください。

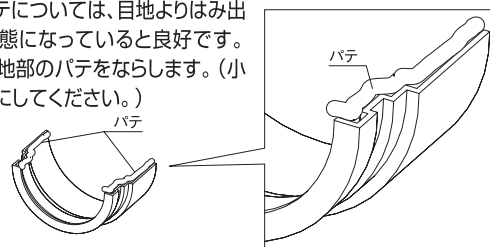


⑥ 台座 (メス型) の取付け用下穴

手順⑤で取付けられた台座半割れ (オス型) に台座 (メス型) を嵌めて動かないよう仮止めし、納入時に明いているビス穴を利用して留付け用下地材 (アングル) に下穴を設けます。

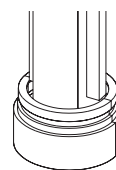
⑦ 台座 (メス型) へのパテ塗布

いったん外したメス型のツバ部にパテを盛付けます。パテについては、目地よりはみ出るくらいになっていると良好です。はみ出した目地部のパテをならします。(小山になるようにしてください。)



⑧ 台座 (メス型) の取付け

オス型および留付け用下地材 (アングル) に付けた下穴に従ってタッピングビスを打ちます。この際のビス打ち込み強さは、オス型との目地部分が揃うように調整し、必要場合は新たにビス穴、ビス打ちを追加します。

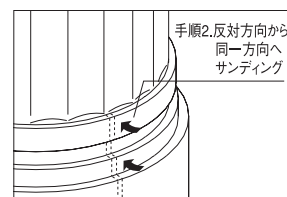
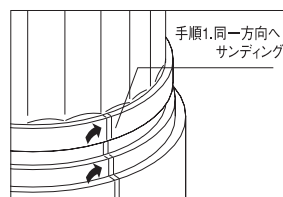


⑨ パテ充填

ジョイント部にパテを充填します。

⑩ パテ硬化後のサンディング

サンドペーパーで削って、砂目がパテに付かない程度にパテが硬化したら、同一方向からパテをサンディングします。その後、反対方向からパテをサンディングし形状を整えます。また、ビス頭のパテを削り面一にします。



⑪ タッチアップ

パテおよび柱の表面の汚れ等をウエス等で取り除き、乾燥後に目地部にタッチアップしてください。

⑫ シーリング

台座と胴体部の取合い部分にシーリング仕上げをしてください。

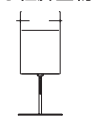
■構成部材

■標準仕様

主要部材	化粧柱 (キャピタル部-胴体一体型) 化粧柱 (台座部 半割れ加工)	1セット / 梱包
シーリング材	変性シリコンシーリング (150g / 1本)	
パテセット	1セット / 梱包	

●柱脚金物

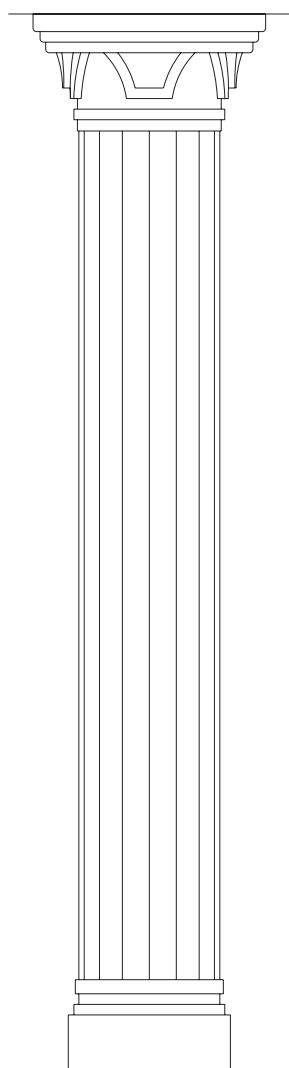
現場調達品



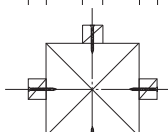
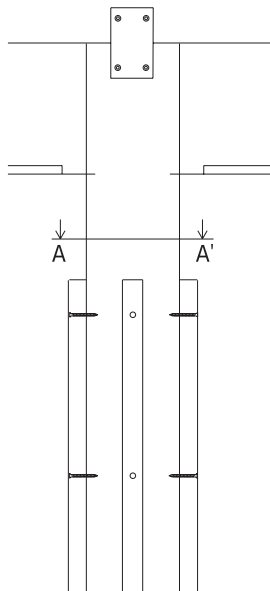
■納まり参考図

3 台座のみ分離・半割れタイプの施工方法

●姿図



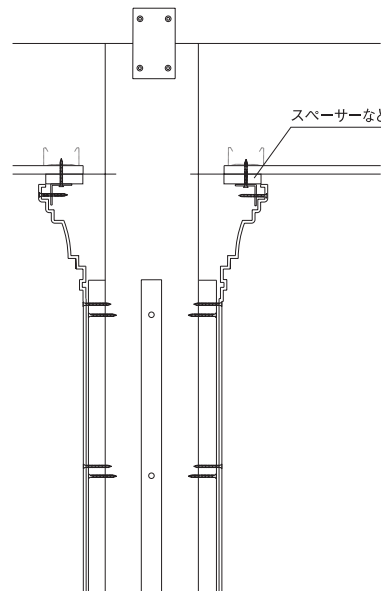
●取付け下地



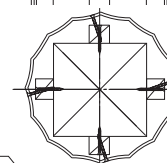
●A-A'矢視図

下地材ビス止め
(@450)

柱脚金物 (現場調達品)

アルミアングル
30×30

スペーサーなど



●A-A'矢視図

ビス止め (@450)

下地材ビス止め
(@450)アルミアングル
30×30

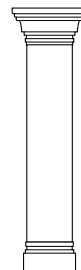
※製品を下地に留め付けるビス以外(アルミアングル等)は、すべて現場調達品となっております。

4 FRP一体型の施工方法

※MH03・04は長さ調整できません。

■設計施工時の注意

- 柱を建てると同時にFRPを施工し、現場での長さ調整をしない場合、もしくは50mm以内の調整の場合に推奨しています。
- 製品ごとの芯材の太さを十分確認してから芯材を用意してください。(製品下地寸法一覧 参照)
- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 化粧柱への荷重は必ず芯材に直接かけ、化粧柱に重みをかけないようにしてください。
- 養生および他部材との取り付け部のシーリングは別途工事になります。



⚠ 注意

- 施工時にキズがつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。
- FRP層には荷重をかけないでください。
- 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。
- 意匠上、MH03・04は現場で長さ調整できません。

■施工要領

●製品を取り付けるタイミング

製品台座下部で、ポーチ部分の軒天を貼る前の段階で取り付けるのが好ましいタイミングです。

■施工手順

①製品長さの調整

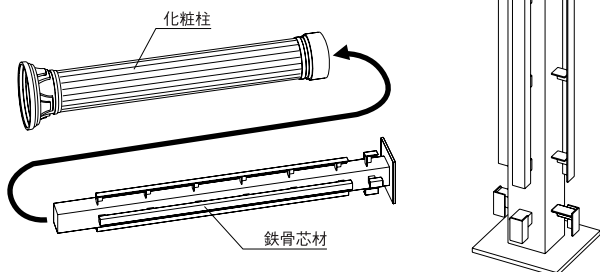
製品長さの調整方法に従って、製品の台座下部で長さを調整してください。

②芯材の用意

芯材製品内径寸法に合わせて右図のような鉄骨芯材(現場調達品)をご用意ください。

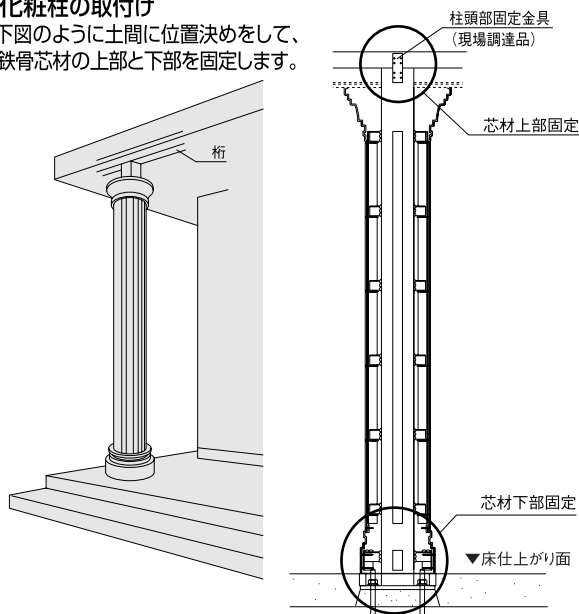
③芯材の挿入

芯材を台座部分から挿入します。また、芯材を挿入後、芯材と胴体とのビス留め位置を確認し、胴体・台座部に下穴をあけ座繰り加工をしておきます。



④化粧柱の取付け

下図のように土間に位置決めをして、鉄骨芯材の上部と下部を固定します。



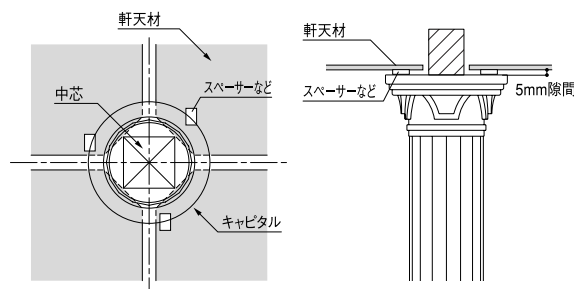
⑤化粧柱の固定

天井の仕上がり面を十分に確認し、化粧柱をビスにて芯材に取付けてください。

⑥ビス頭のパテ処理

ビス頭はパテ処理し、十分に研磨した後、タッチアップ塗料を塗布してください。

●軒天材とキャピタルとの取り付け方法



⑦シーリング処理

別途工事となりますが、天井取合い部・床との取合い部のシーリング処理を施してください。

■構成部材

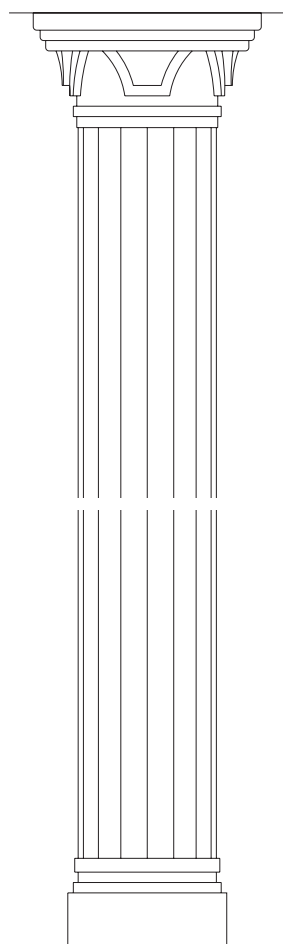
■標準仕様

主要部材	化粧柱(キャピタル・胴体・台座 一体型)	1セット ／梱包
シーリング材	変性シリコンシーリング(150g/1本)	
パテセット	1セット／梱包	

■納まり参考図

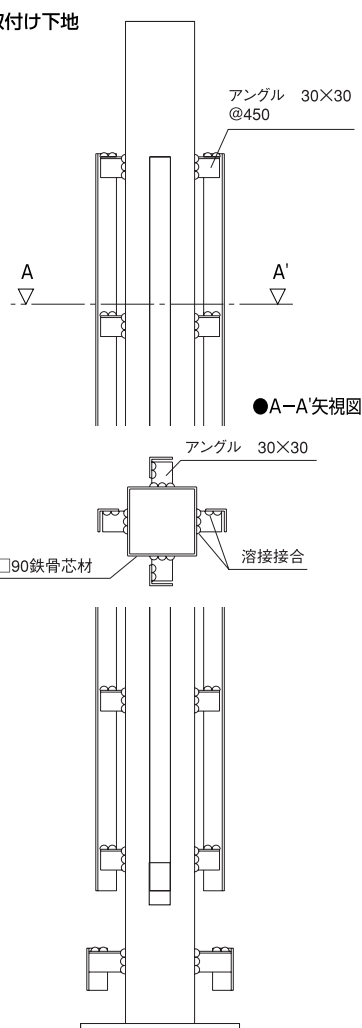
■4 FRP一体型の施工方法

●姿図

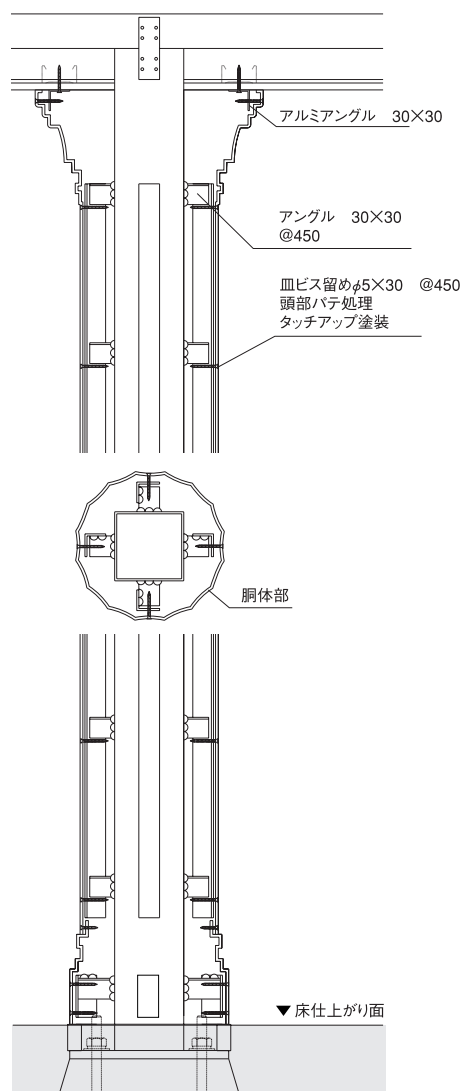


1W04

●取付け下地



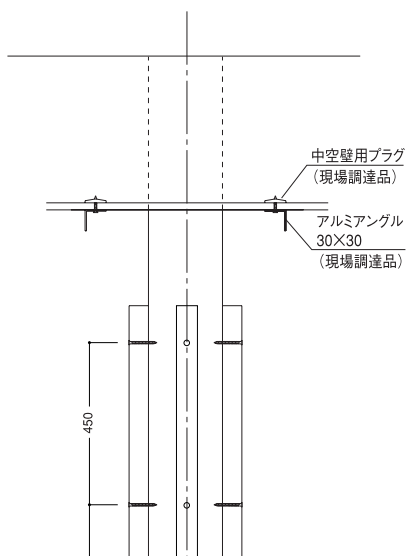
●A-A'矢視図



※製品を下地に留め付けるビス以外（アルミアングル等）は、すべて現場調達品となっております。

■キャピタル固定用下地

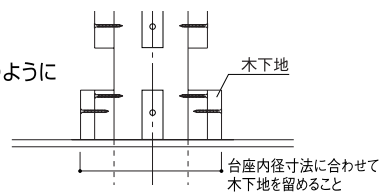
キャピタルの上端内径寸法に合わせてアングルを中空壁用のプラグなどで固定してください。



■台座固定用下地

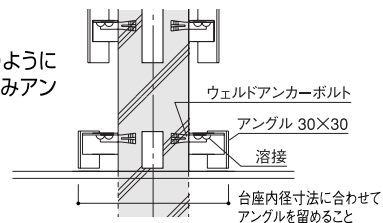
●木下地の場合

台座の内径寸法に合わせて図のように木下地を取付けます。



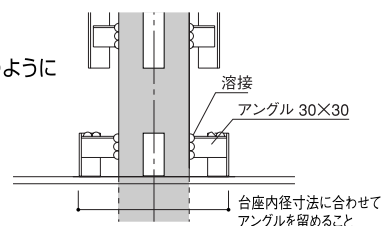
●RC下地の場合

台座の内径寸法に合わせて図のようにウェルドアンカーボルトを打ち込みアングルを溶接します。



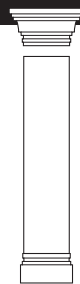
●鉄骨下地の場合

台座の内径寸法に合わせて図のようにアングルを溶接します。



5 キャピタルスライドタイプの施工方法 (キャピタル分離、胴体-台座一体型)

※MH02・03・04のみ対応。



■設計施工時の注意

- 柱を建てると同時にFRPを施工する場合、長さ調整をしない、もしくは20mm程度の場合に推奨します。
- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 取付け完了後、キャピタル-胴体のジョイント部分に同梱のシーリング材でシーリング仕上げをしてください。
- 養生と他部材との取合い部のシーリングは別途工事になります。



- 施工時にキズがつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。
- 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。

■施工要領

●施工前の注意事項

芯材を取付けるための梁の位置を十分に確認してください。

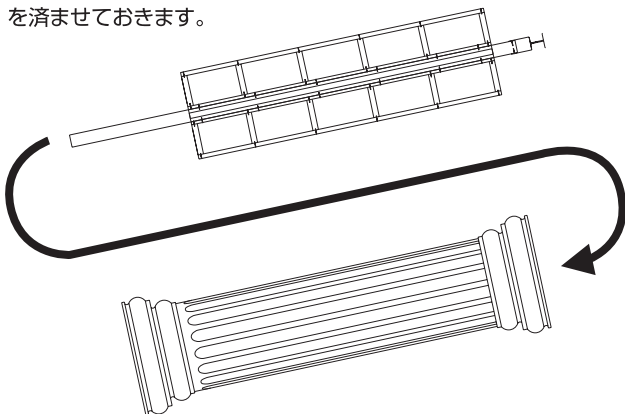
●製品を取り付ける前に

取付け下地となる芯材の用意が必要です。納まり参考図のように製品寸法に合わせて芯材を設置してください。また、芯材の脚部には長さ調整のための金物 (別売金物) を取付けてください。

■施工手順

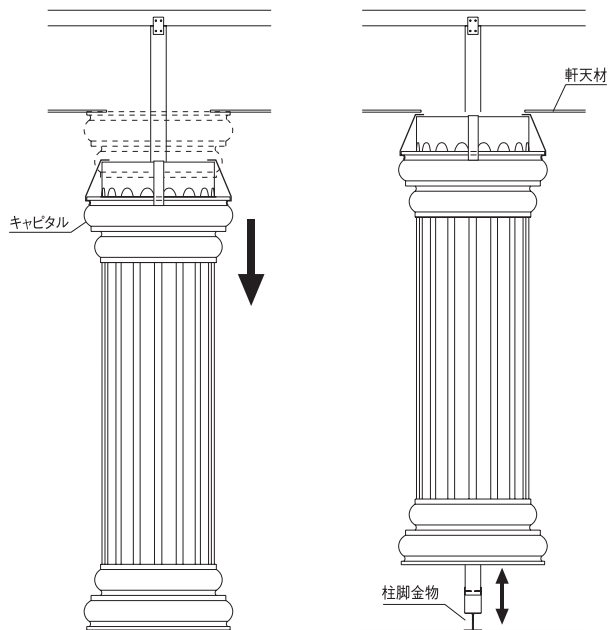
①芯材の挿入

化粧柱に芯材を台座部分の方から挿入します。この際に、芯材に合わせてキャピタルおよび化粧柱本体に下穴、ビス穴、座繰り処理を済ませておきます。



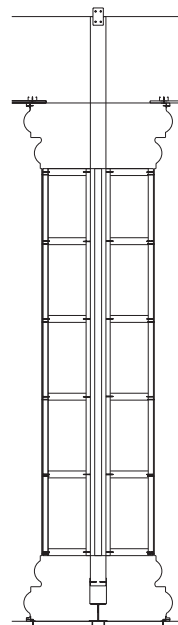
②芯材の取付け

芯材の上部を留め付ける部分の天井に、化粧柱のキャピタル部分で隠れる大きさの開口を設けます。キャピタル部分をスライドさせ、本体部分に重ねてテープで仮固定します。梁に芯材上部を固定し、柱脚金物で長さの微調整を行い、鉛直になるように固定します。



③化粧柱の固定

化粧柱を芯材アングル (縦通し部) にビス留めにて取付けてください。ビス頭はパテ処理し、十分に研磨した後、タッチアップ塗料を塗布してください。



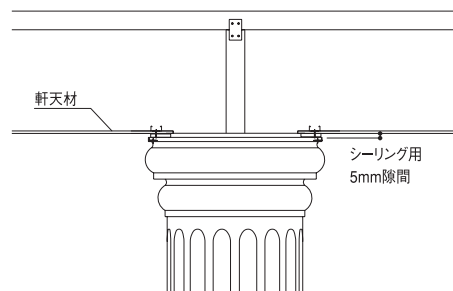
④キャピタル部の固定

キャピタル部の天井面にアルミアングルなどで下地を設け、キャピタル部をスライドさせシーリング用の隙間を考慮した位置で固定してください。

⑤シーリング処理

胴体部とキャピタル部の取合い部分を同梱のシーリング材でシーリング処理をしてください。

●軒天材とキャピタルとの取合い方法



■構成部材

■標準仕様

主要部材	化粧柱 (キャピタル分離、胴体-台座 一体型)	1セット ／梱包
シーリング材	変性シリコンシーリング (150g/1本)	
パテセット	1セット／梱包	

現場調達品

●柱脚金物

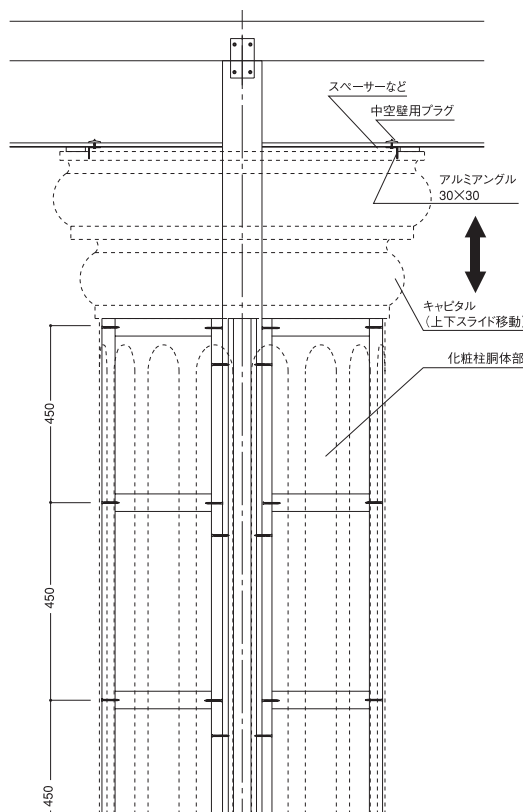


■納まり参考図

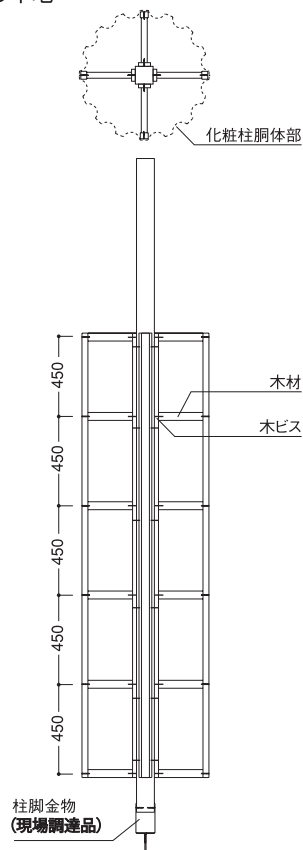
5 キャピタルスライド施工方法（キャピタル分離、胴体-台座一体型）

木下地の場合

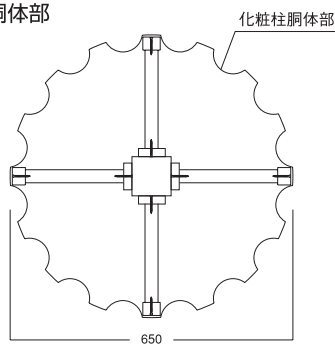
●芯材上部



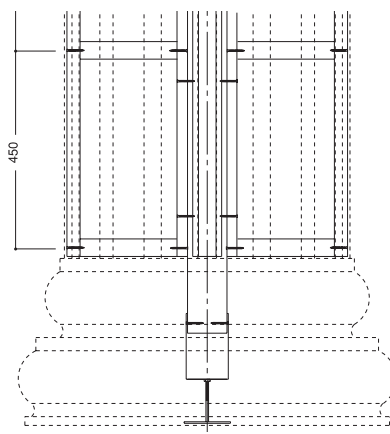
●取付け下地



●胴体部



●台座部



※製品を下地に留め付けるビス以外（アルミアングル等）は、すべて現場調達品となっております。

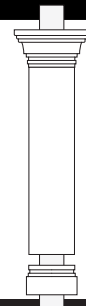
⑥ 木芯材付きタイプの施工方法

■設計施工時の注意

- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 化粧柱への荷重は必ず芯材（集成材）に直接かけ、FRP層に重みをかけないようにしてください。
- 取付け完了後、本体と台座のジョイント部分に同梱のシーリング材でシーリング仕上げをしてください。



- 注意**
- 施工時にキズつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。
 - 本製品に荷重をかける場合は中の芯材にのみに荷重がかかるよう（FRP層にかからないよう）に注意してください。
 - 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。



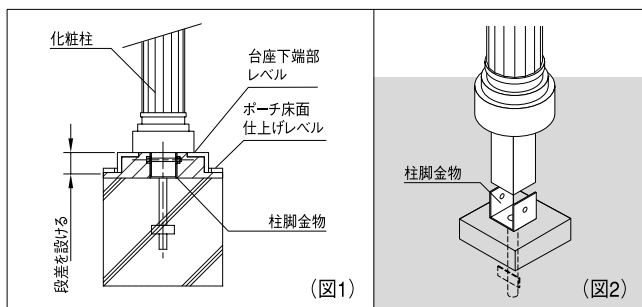
■施工要領

●製品を取り付けるタイミング

製品はポーチ部分の軒天を張る前の段階で取り付けるのが好ましいタイミングです。それまでは施工手順④図のように、仮柱（サポート等）を柱取り付け部分からずらして施工をしておいてください。

●製品を取り付ける前に

土間位置に、仕上がり寸法を考慮して予め柱脚金物を設けておいてください。（図1・2）柱の台座下端部分の高さは床仕上げ面よりも高くなるようにしてください。（図1・2）柱の取り付け位置と梁、桁などがずれる場合は、梁桁などに補助梁、桁を適宜接合してください。



■施工手順

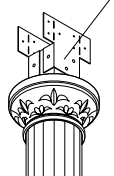
①製品長さの調整

製品長さの調整方法に従って、製品の長さを調整してください。

②芯材上部への金具固定

芯材上部に柱頭部固定金具を固定します。（右図参照）

柱頭部固定金具

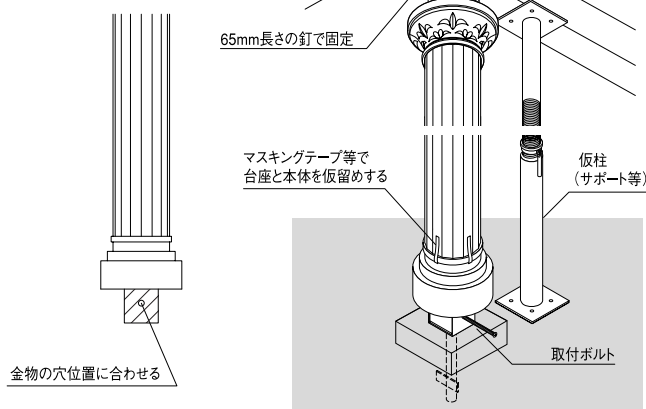


③ポーチ部分への化粧柱の挿入

下部を柱脚金具に、また上部を梁（又は桁など）に固定します。その際、台座が滑らないようにマスキングテープ・養生テープ等で台座と本体を仮留めしてください。化粧柱挿入時、仮柱（サポート等）で梁を少し持ち上げて作業を行うと簡単です。

④芯材下部への穴開け

芯材下部に柱脚金物のボルト位置に合わせて適当なサイズの穴を開けます。（左下図参照）

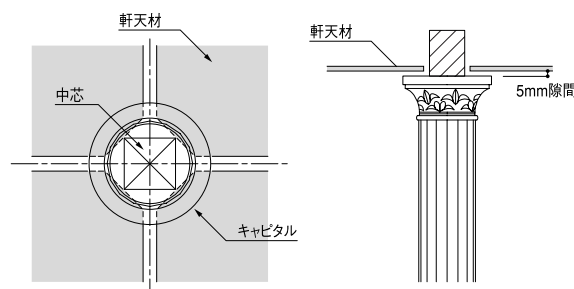


⑤仮柱（サポート等）外し

⑥野縁／軒天材の施工

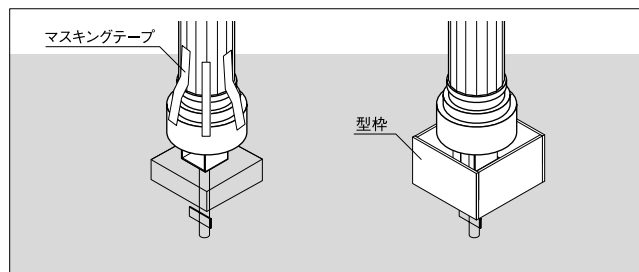
軒天材は、中芯部分を抜いてキャピタルにのみ込ませます。

●軒天材とキャピタルとの取り付け方法



⑦金具周囲へのモルタルを流し込み

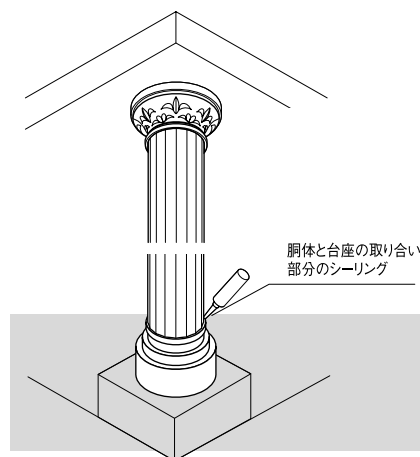
仕上げ高さを考えて、台座が下からないよう台座下に部分的にマスキングテープで固定してモルタルを流し込んでください。



⑧床仕上げ

⑨シーリング処理

軒胴体部と台座部の取り付け部分を同梱のシーリング材でシーリング処理をしてください。



■構成部材

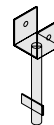
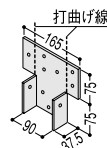
■標準仕様

化粧柱 1型	主要部材	化粧柱 (キャピタル 台座を含む)	FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 発泡ウレタン
		芯材	集成材(90°)(下部防蟻防腐剤塗布品)
		芯材カバー	ポリエチレン製(t=1.5mm)
		シーリング材	変性シリコンシーリング(150g/1本)
		梱包入数	1セット/梱包

●柱頭部固定金物

●柱脚金物

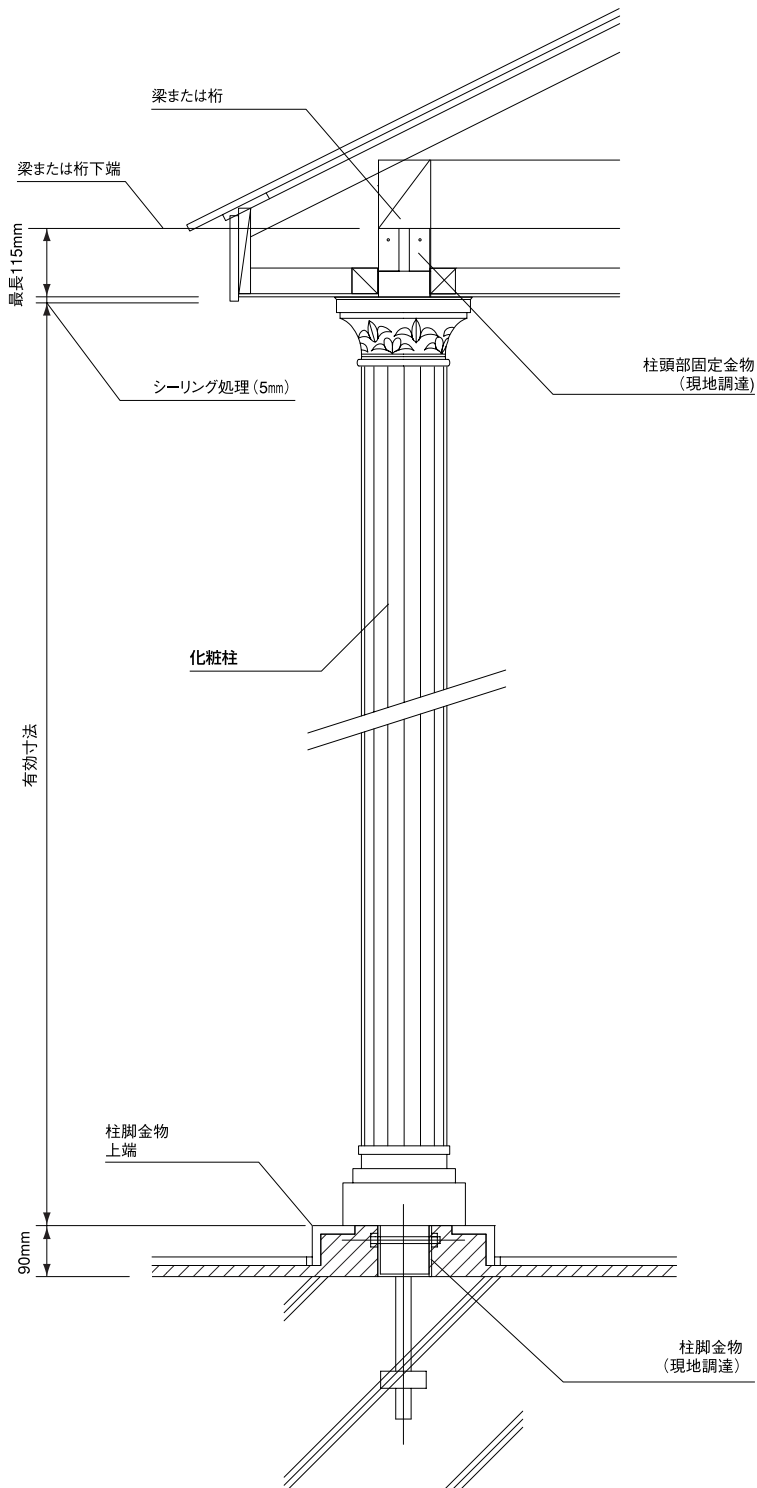
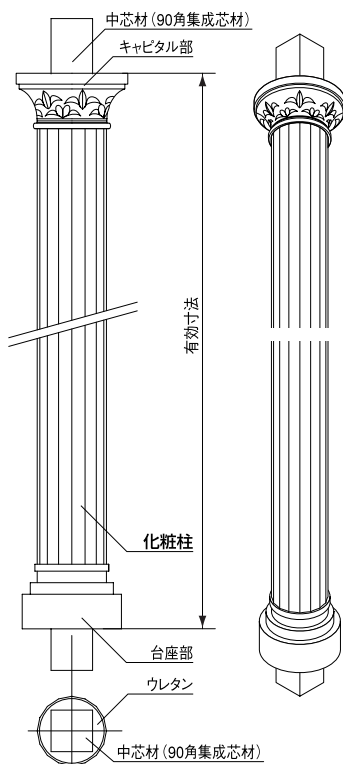
現場調達品



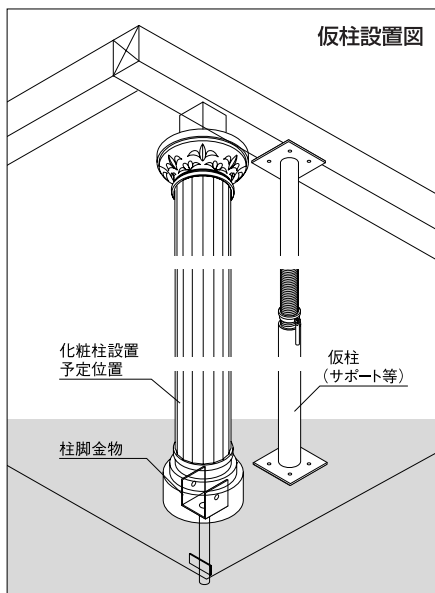
■納まり参考図

6 木芯材付きタイプの施工方法

●化粧柱構成図



仮柱設置図



製品の切断方法／塗装について／養生について／音消し処理／パテ処理／カケ、傷、割れの補修手順／保管について

■製品の切断方法

■製品の切断

【長さの調整】

製品を必要長さに切断します。50mm未満の微調整の場合は台座部分を切断してください。それ以上の調整は胴体下部を切断してください。切断にはディスクグラインダー（FRP用の刃）を使用してください。切断時は必要に応じてマスクや防護眼鏡など使用してください。

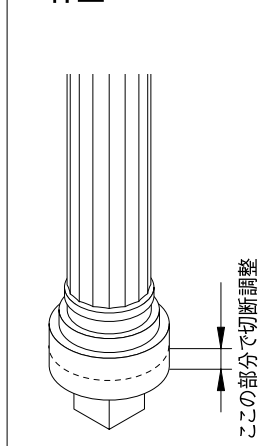
⚠ 注意

- 本体下部を切断する場合は芯材を傷つけないよう注意してください。（表面のFRP層を切削して、のこったウレタン部分をカッターなどで取り除いてください。）芯材の調整は通常のノコを使用して調整してください。

●台座部で長さを調整する場合

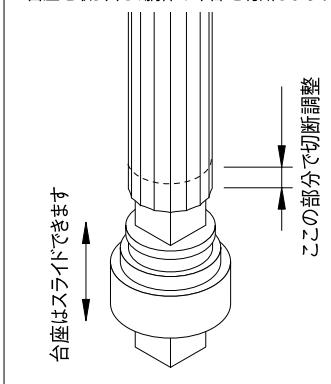
●胴体部で長さを調整する場合

一体型



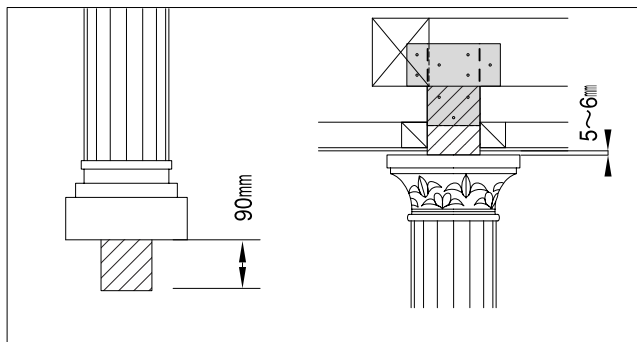
台座分離型

台座は芯材に沿ってスライドします。台座を取り外し、胴体の下部を切断します。



【中芯材の長さの調整】

- 下部中芯材を切断する場合は、台座を本体にあてた状態で、中芯の露出長さが90mmになるようにしてください。上部中芯材はシーリング用の隙間を設けるため、天井仕上げ材がキャピタル天端より5～6mm高くなるように切断してください。



■塗装について

- 表面に汚れ等をサンドペーパー（＃180）等で除去してください。
- 塗装は、スプレーまたは刷毛で2回塗りしてください。
- 塗料はアクリルウレタン系、またはウレタン系の塗料（日本ペイント「タイルラック上塗」、関西ペイント「マルチタイルPV」etc.）、水性塗料（エマルジョンタイプ）をご使用ください。
- 詳細は、塗料メーカーの仕様に従ってください。

■養生について

- 施工時にはキズが付かないよう十分に仕上げ面を養生してください。

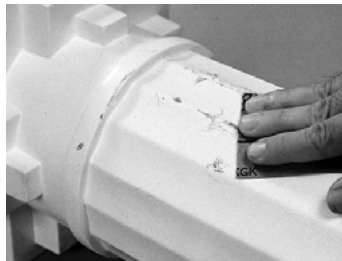
■音消し処理について

※ウレタン充填など音消し処理をご希望の際にはフクビ営業所までご相談ください。

■パテ処理、カケ、傷、割れの補修手順

- 施工中または運搬中に万が一傷などが生じた場合は、下記手順に従って補修してください。

①ヨゴレ、木粉等を除去してください。

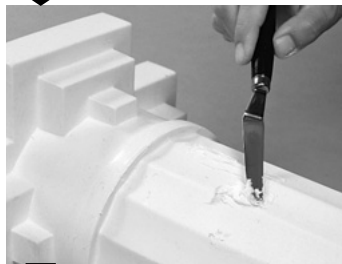


②補修箇所をサンドペーパー（＃100）で研磨してください。

③ホコリ等を除去してください。



④パテと硬化剤を100:3の割合で十分に練込み、修正部分に多めに盛りつけるように塗布してください。



⑤養生時間は、夏場では30～40分、冬場では50～60分です。



⑥硬化を確認したうえで、サンドペーパー（＃180）で研磨してください。



⑦塗装（1液性）を2度塗りして、完了です。

パテセット

- サンドペーパー（＃100、＃180）
- パテ
- 硬化剤

■保管について

- 湿気が少なく、水のかからない平滑なところに敷板をして、水平に積んでください。

芯材付き化粧柱の施工方法 — 化粧柱2型（和風銘木タイプ）

■設計施工時の注意

- 取付け寸法を充分確認してから、施工の作業にかかってください。
- 化粧柱への重みをかけないようにしてください。



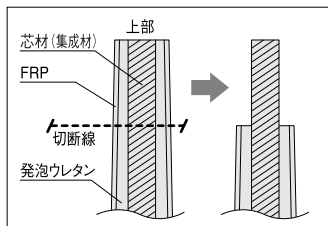
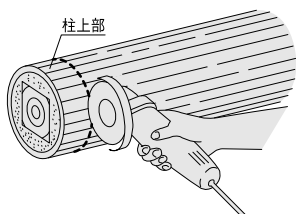
- 構造材としては使用しないでください。
- 製品の施工は通例玄関に使用されることから施工後にもキズがつきやすいので、発泡シートなどで養生して、ベニヤで囲いを設けるなど十分に保護してください。
- 施工時にキズがつかないように十分に仕上げ面を養生して施工してください。

■切断調整

- 長さ調整は上部で切断してください。
- 切断には、ディスクグラインダーをご使用ください。



- 芯材は切断しないでください。

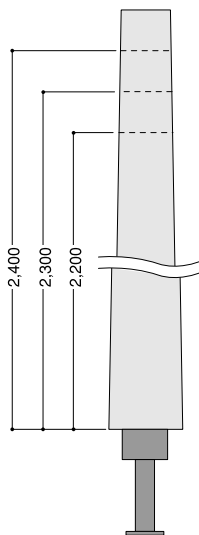
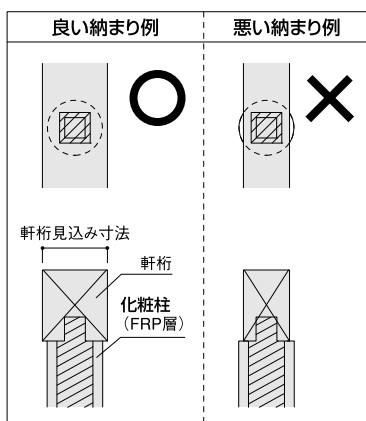


■標準仕様

化粧柱 2型	主要部材	化粧柱	FRP (ガラス繊維強化プラスチック) 発泡ウレタン
		芯材	集成材 (55 [□])
		柱受け金具	ステンレス鋼ブロンズ仕上げ
		梱包入数	1セット/梱包

⚠ 軒桁に直付けする場合の注意

- 製品はテーバーがついていいますから、切断箇所によっても各型とも木口の直径が多少異なります。下図の各箇所の直径をご参考のうえ、木口の直径が軒桁の見込み寸法より大きくならないようご注意ください。



■軒桁との納まり寸法表

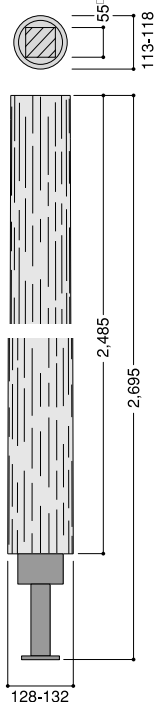
呼称	形状	最先端直径寸法 (φmm)		
		2,400	2,300	2,200
2J01	絞り丸太	118	120	122
2J03	磨き丸太	117	120	120

※軒桁に直付けする場合は、上記の「軒桁との納まり寸法表」をご参考のうえ適正な規格の軒桁をご用ください。

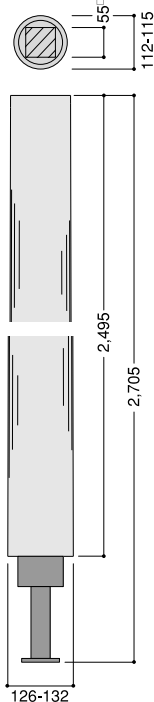
※瓦屋根で使用する場合は、キャンティ構造にするなど、柱材に重量がかからないようにしてください。

■製品図 S=1/15

●2J01

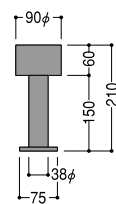


●2J03

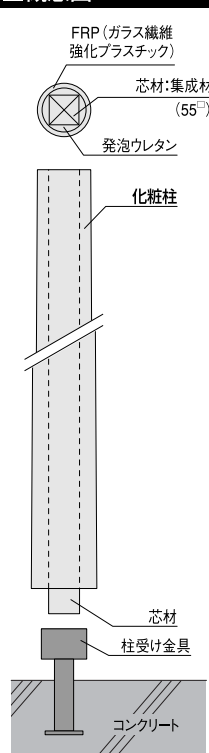


■柱受け金具製品図

●2J01・2J03共通

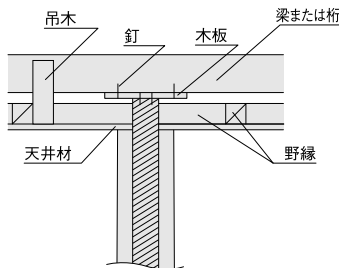


■概念図

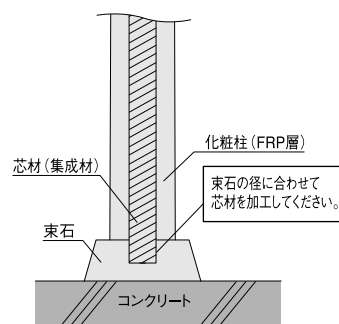


■納まり参考図

●上部木板直付けの場合



●下部束石使用の場合



- ⚠ 注意 ●束石は市販のものをご使用ください。